



第 72 回日本リハビリテーション医学会関東地方会学術集会



## 専門医・認定臨床医生涯教育研修会

○ 日 時： 2020 年 2 月 9 日(日) 10:00 ～ 17:30 (受付開始 9:30～)

○ 会 場： さいたま市民会館うらわ ホール

〒330-0062 さいたま市浦和区仲町 2-10-22

TEL.048-822-7101 FAX.048-822-7106

電車でお越しの方

J R 京浜東北線ほか 浦和駅西口より徒歩 7 分

浦和駅よりバスをご利用の場合

国際興業または東武バス「市民会館入口」下車 徒歩 1 分

○ 会 長： 美津島 隆(獨協医科大学リハビリテーション科学)



第 72 回日本リハビリテーション医学会関東地方会学術集会

会 長：美津島 隆(獨協医科大学リハビリテーション科学)

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林 880

獨協医科大学リハビリテーション科学講座

Tel 0282-87-2170 / Fax 0282-86-6943

E-mail: rehabili@dokkyomed.ac.jp

- 参加費等 地方会参加費 医師 2000 円、メディカルスタッフ 1000 円、 学生無料  
日本リハビリテーション医学会 生涯教育研修会 1 講演 1000 円  
日本整形外科学会 教育研修講演会 1 講演 1000 円
- 単位認定 日本リハビリテーション医学会  
地方会参加 10 単位(筆頭演者はさらに年度末自己申請により 1 演題 10 単位)  
日本専門医機構専門医は参加 2 単位(筆頭演者はさらに年度末自己申請により 1 演題 1 単位)  
生涯教育研修会 1 講演 10 単位(3 講演で 30 単位)  
日本整形外科学会  
教育研修講演会 1 講演 1 単位(3 講演で 3 単位)  
必須分野：講演 1 [1, 13、運動器リハ] 講演 2 [11, 13、運動器リハ]  
講演 3 [13、運動器リハ]  
日本整形外科学会単位認定には IC 会員カードが必要です。必ずご持参ください。
- 利益相反について  
日本リハビリテーション医学会が定める「利益相反の管理に関する申し合わせ」に従ってください。利益相反がない場合も、スライドで表示してください。

## **参加者の皆様へ**

プログラムは当日配布致しませんので、必ずご持参ください。

1. 受付にて参加費(医師 2000 円、メディカルスタッフ 1000 円)と引き換えに領収書と青色の参加カードと参加証明書をお受け取りください。参加証明書はお手元に保存し、必要事項を記入したカードを専用の回収箱にお入れください。
2. 日本リハビリテーション医学会、生涯教育研修会にご参加の方は、1 講演につき 1000 円をお支払いいただき、領収書をお受け取りください。専門医・認定臨床医資格更新のための単位認定をご希望の方は、白色の受講カードをお受け取りください。認定臨床医資格取得のための単位取得をご希望の方は、お申し出の上、オレンジ色の受講カードと受講証明書をお受け取りください。いずれも、受講証明書をお手元に保存し、記入済みの受講カードは講演終了後、専用の回収箱にお入れください。
3. 日本整形外科学会、教育研修講演会にご参加の方は、1 講演につき 1000 円をお支払いいただき、領収書をお受け取りください。公演開始 10 分以内に会場入口に設置してありますカードリーダーにて受講手続きをお済ませください。

## 一般演題ご発表の先生方へ

### 1. 発表方法に関して

- (1) 発表時間は7分、討論2分です。発表時間は厳守してください。
- (2) 発表はPCを 사용합니다。スライドホルダーやVHSビデオは使用できませんのでご注意ください。
- (3) 発表データは、USBメモリ、CD-R、PC本体のうちいずれかの様式でお持ち込みください。

### 2. 講演セッション開始 30 分前 (第一部の演者の先生は9:50)までにPC受付にて発表データの試写と受付を済ませてください。

### 3. USBフラッシュメモリ、CD-Rをお持ち込みの方への注意事項

- (1) ウイルスチェックは最新の定義ファイルを用いて行ってください。
- (2) ソフトはWindows版PowerPoint2010、2013、2016、2019をご使用ください。
- (3) フォントはOS標準のもののみをご使用ください。  
\*Mac-OSをご使用の方はご自身のPC本体を持参してください。
- (4) スライドサイズは標準(3:4)で作成ください。
- (5) 動画ファイルをご使用の場合、再生に問題のないご自身のPC本体をお持ち込みになることを推奨します。

### 4. ノートPCをお持ち込みの方への注意事項

- (1) バックアップとして必ずUSBフラッシュメモリ等をご持参ください。
- (2) プロジェクターとの接続ケーブルはDsub-15ピンです。PCによっては専用のコネクタが必要になりますので、必ずお持ちください。
- (3) コンセント用電源アダプタを必ずご持参ください。
- (4) 持ち込みPCのスクリーンセーバー、省電力設定は事前に解除願います。

### 5. 日本リハビリテーション医学会雑誌「Jpn J Rehabili Med.」掲載用の抄録原稿『演題名、演者名、演者所属、抄録(本文400字以内)』を作成し、デジタルデータとして 2月1日までに事務局([rehabili@dokkyomed.ac.jp](mailto:rehabili@dokkyomed.ac.jp))にご送付ください。

### 6. 発表が次の順番になりましたら、次演者席にて待機してください。

## 第73回日本リハビリテーション医学会

### 関東地方会学術集会 プログラム

---

#### 【一般演題：第一部】脳血管障害など 10:00～10:45

座長：船越政範（栃木県立リハビリテーションセンター リハビリテーション科）

---

#### 1. 地域連携により復職を達成しえた重度脳挫傷事例 ～1症例の報告～

東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座

○渡邊 修、池田久美、木下翔司、鈴木 慎、濱 碧、佐々木信幸、安保雅博

#### 2. 嚥下障害にて発症した癌性髄膜炎の一症例

川崎市立川崎病院

○三島 牧、阿部玲音 梶本かさね

#### 3. 定常状態視覚誘発電位型ブレインマシーン・インターフェイス (SSVEP-BMI)

と EMG のハイブリッド制御を用いた上肢アシスト運動訓練による脳卒中片麻痺一例の上肢機能変化の検討

獨協医科大学 生理学（生体情報）講座<sup>1)</sup>

東京医科歯科大学 生体材料工学研究所 生体機能修復研究部門 バイオメカニクス<sup>2)</sup>

○小金丸聡子<sup>1)</sup>、神作憲二<sup>1)</sup>、川瀬利弘<sup>2)</sup>

#### 4. 失語に皮質盲を合併し、動作の定着に難渋した脳卒中の1例

杏林大学医学部リハビリテーション医学教室<sup>1)</sup>

杏林大学医学部脳卒中医学教室<sup>2)</sup>

○野邊浩一朗<sup>1)</sup>、山田 深<sup>1)</sup>、安部 佑<sup>1)</sup>、藤井 浩<sup>1)</sup>、岡島康友<sup>1)</sup>、平野照之<sup>2)</sup>

#### 5. 回復期リハビリテーション病棟入院中に復職できた脳出血の症例——テレワークの活用

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院リハビリテーション科

○吉富明利、諸富伸夫、和田和義、竹島慎一、飯田 守、野尻恵里、川手信行

---

【一般演題：第二部】 内部障害など 10：50～11：44

座長：中村 智之（足利赤十字病院 リハビリテーション科）

---

6. 外来リハビリテーションが効果的であった虚血性心筋症の1例

川崎市立多摩病院 循環器内科

○足利光平

7. 開心術後に肺炎、腸管虚血、腎不全を合併し、嚥下障害、消化吸収障害をきたしたが、経口摂取可能となり家庭復帰した1例

亀田メディカルセンター リハビリテーション科

○小山照幸、桂井隆明、宮越浩一、小川尋海、佐田七海子、相田万実子、小川斉宏、新谷可恵、井合茂夫

8. 当院における肺移植術後のリハビリテーション治療の経験

獨協医科大学リハビリテーション科学講座

○武村 優、入澤 寛、渋谷健一郎、美津島 隆

9. 早期よりリハビリテーションを行い良好な転帰をたどった外傷性横隔膜破裂の一例

東邦大学医療センター大森病院リハビリテーション科

○大坪優太、宮城 翠、伊豆蔵英明、大国生幸、内昌之、海老原 寛

10. 当院におけるICUでの身体活動量の傾向

横浜市立大学医学部リハビリテーション科学

○野々垣 学、金森裕一 山上大亮 乾聡一郎 根本明宜 中村 健

11. 【Post Intensive Care Syndrome が遷延した症例に対するリハビリテーション外来継続の効果】

—嚥下機能およびサルコペニアの観点から—

東京慈恵会医科大学 リハビリテーション医学講座<sup>1)</sup>

東京慈恵会医科大学附属柏病院 リハビリテーション科<sup>2)</sup>

東京慈恵会医科大学附属病院 リハビリテーション科<sup>3)</sup>

○山田尚基<sup>1)</sup>、又吉由紀子<sup>1)</sup>、桂田功一<sup>2)</sup>、樋口謙次<sup>2)</sup>、伊東寛史<sup>3)</sup>、新見昌央<sup>1)</sup>、安保雅博<sup>1)</sup>

---

【一般演題：第三部】運動器など 11:50~12:44

座長：入澤 寛（獨協医科大学リハビリテーション科学）

---

12. 首下がり、球麻痺症状などの進行が著明であった ALS 患者に対して様々な工夫で長期にわたり HAL を用いた歩行訓練を継続できた 1 例

総合病院土浦協同病院リハビリテーション科

○小林加菜未、岡田恒夫

13. 頸椎神経鞘腫摘出後に残存した歩行障害に対してリハビリテーションを実施した神経線維腫症 2 型の一例

東京都健康長寿医療センターリハビリテーション科

○加藤貴行、齊藤陽子、正田奈緒子、金丸晶子

14. 両下腿義足歩行時の身体負荷軽減に関する検討を行った 1 症例

東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座<sup>1)</sup>

東京都リハビリテーション病院<sup>2)</sup>

○本田有正<sup>1),2)</sup>、武原 格<sup>1),2)</sup>、安保雅博<sup>1)</sup>

15. 蜂窩織炎を繰り返すリンパ浮腫症例への集中排液治療

東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座

○奥山由美、安保雅博、巷野昌子、上原朋子

16. 急性期病院運動器リハビリテーション施行患者の退院帰結と握力、下腿周径との関係

防衛医科大学校病院リハビリテーション部

○小林龍生、尼子雅敏、長尾陽子、倉橋利佳

17. 筋力低下の患者に体幹を安定化させる繊維素材を身につけて転倒を予防する画期的な試み

獨協医科大学病院 医療安全推進センター<sup>1)</sup>

獨協医科大学 脳神経内科<sup>2)</sup> 獨協医科大学 公衆衛生学講座<sup>3)</sup>

獨協医科大学 整形外科<sup>4)</sup> 獨協医科大学 第二外科<sup>5)</sup>

○辰元宗人<sup>1)</sup>、星山栄成<sup>2)</sup>、梅澤光政<sup>3)</sup>、竹内大作<sup>4)</sup>、鈴木佳世子<sup>1)</sup>、河野由江<sup>1)</sup>、種市 洋<sup>4)</sup>、

小橋元<sup>3)</sup>、平田幸一<sup>2)</sup>、窪田敬一<sup>1),5)</sup>

12：45～14：00 昼休憩

教育研修講演

---

【専門医・認定臨床医生涯教育研修会：講演1】14：00～15：00

（日本整形外科学会教育研修会 必須分野番号：1、13、運動器リハ）

座長：甘井 努（医療法人若葉会 若葉病院 院長）

共催：東名ブレース株式会社

---

『運動で若返りー強負荷リハビリテーションの効果ー』

浜松医科大学附属病院 リハビリテーション科 病院教授

山内 克哉 先生

---

【専門医・認定臨床医生涯教育研修会：講演2】15：05～16：05

（日本整形外科学会教育研修会 必須分野番号：11、13、運動器リハ）

座長：美津島 隆（獨協医科大学リハビリテーション科学 主任教授）

---

『股関節疾患のリハビリテーション診療 基本と UP-TO-DATE』

獨協医科大学さいたま医療センター 第二整形外科 主任教授

神野 哲也 先生

---

【専門医・認定臨床医生涯教育研修会：講演 3】 16：10～17：10

（日本整形外科学会教育研修会 必須分野番号：13、運動器リハ）

座長：中村 健（横浜市立大学医学部リハビリテーション科学 教授）

共催：インターリハ株式会社

---

『TOKYO パラスポーツへの医科学的支援と社会的影響』

学校法人敬心会 臨床福祉専門学校 校長

日本障害者スポーツ学会 理事長

陶山 哲夫 先生



## ご支援をいただいた企業一覧

下記の方々により多大なるご賛同をいただきました。心より感謝申し上げます。

第73回日本リハビリテーション医学会関東地方会会長 美津島 隆

### ◆共催セミナー・企業展示◆

東名ブレース株式会社

インターリハ株式会社

### ◆広 告◆

東名ブレース株式会社

インターリハ株式会社

医療法人 友志会

医療法人 達生堂 城西病院

日本臓器製薬

富士フイルムメディカル株式会社

社団医療法人 明倫会 日光野口病院

大塚製薬株式会社

